

# ひまわり

茨城県立医療大学附属病院

広報紙 第11号

発行：2011年11月

発行責任：院長 和田野 安良

## ご挨拶

副院長 大瀬 寛高

この4月より、副院長に就任いたしました大瀬寛高です。まだ、慣れない点が多く、われながら頼りない部分もあるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は平成8年10月に当大学へ赴任しました。附属病院は平成8年12月に開院となりましたので、その直前ということになります。まだ病院も始まっておらず、患者さんも居ないという状況に、正直、拍子抜けした記憶があります。また、病院立ち上げの準備のためとはいえ、慣れない会議が延々と続くことにストレスを感じる毎日でした。しかし、文字通り、ゼロからのスタートということで各部門とも真剣そのもので、病院のありようを熱く議論する姿には感銘を受けたものです。私はといえば、内科医でリハビリテーションに疎く、作業療法やソーシャルワーカーという言葉さえ初めて聞いたほどでしたので、気の利いた発言もできず、持ち前の消極性もあいまって、熱い議論の輪の外で邪魔にならないように耳を傾けていました。それから、あっという間に15年が経過しようとしています。

私が、長年働いてきて実感している当院のいちばんの特長は、患者さんを中心にして多くの職種が力を合わせ、コミュニケーションを密にとりながら医療・リハビリテーションを提供できている点だと思っています。患者さんに関わる全職種が話し合いを行い、共通の認識を持って、患者さんごとに到達目標を設定し、患者さんの機能を最大限に回復できるように努めています。今後も、患者さんやご家族の立場になって、職員が協同して良質な医療・リハビリテーションを提供できるように努めたいと思います。

当院は、大学附属病院ですので学生の教育・実習の役割も担っています。私も時間をいただいて授業を行っていますが、教えることは教わることで、自

分にとっても大変貴重な時間です。大学での授業時には、見た目も服装も「今時の若者」



である学生ですが、一転して病院実習では、患者さんや病院スタッフに真摯な態度で接する姿をみると、安心し、ある種の感動を覚えます。学生から社会人・医療人になっていく大切な過程に関与できる喜びを感じながら、患者さん思いの優秀な医療従事者が育っていくように願っています。

病院は研究の場でもあり、多くの臨床研究が行われています。研究は、自己の資質向上につながるのはもちろんですが、得られた結果を臨床・教育に還元できるという喜びがあります。研究によって、より良い医療を患者さんに提供でき、また、わかりやすく好奇心を刺激できるような生きた知識を学生に示すことができるように心掛けたいと思います。

この9月から回復期リハビリテーション病棟で、一部、土曜日のリハビリテーションの提供が始まります。これも、限られた人員の中で最大限のリハビリテーションを提供できるよう、病院全体で知恵を絞って実施に漕ぎつけたものです。この先も、社会情勢や医療制度の変化の中で、乗り越えていくべき問題が多々生じてくることと思います。決して楽観はできませんが、私は当院スタッフの底力を知っていますし、信じていますので、解決できない課題はないと考えています。これからも職員一同、力を合わせて、一人でも多くの患者さんのお役に立てるように努める所存ですので、よろしくお願い申し上げます。

# 禁煙外来を始めました

当院でも遅ればせながら、平成 23 年 1 月から禁煙外来を始めました。

ご存知のように、喫煙は慢性閉塞性肺疾患や虚血性心疾患、脳卒中の発症リスクを高め、がんの発生にも深く関与します。肺がんや喉頭がんが増えるのは有名ですが、胃がんや大腸がんなど、すべてのがんの発生リスクを高めます。全がんの 1/3 はタバコが原因で生じるとさえいわれていますので、この世にタバコがなくなればがんは 2/3 に減る計算になります。

タバコの害が本人に及ぶのは仕方がないことともいえますが、周囲の方々の生命をも危うくします。いわゆる受動喫煙ですが、喫煙者はこの事実を重く受け止めるべきです。

しかし、「分っちゃいるけどやめられない〜♪」のがタバコだともいえます。これは、喫煙によってタバコに対する身体的・心理的依存が生じるため、特にタバコに含まれる有害物質である「ニコチン」は身体的依存を引き起こす中心的な成分です。

禁煙治療は、このニコチンをタバコ以外の方法で補う「ニコチン代替療法」として始まりました。おなじみのニコチンガム（商品名ニコレット）や、ニコチンを経皮的に補うニコチンパッチを用いた治療

法です。ニコチン代替療法は、禁煙治療の幕を開けた功労者ですが、殺虫剤にも含まれるニコチンという有害物質を意図的に投与しているわけですので、私個人的には少々抵抗があります。また、ニコチンを含んだ治療薬は血管を狭める副作用もあるため、虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）の患者さんには使えません。

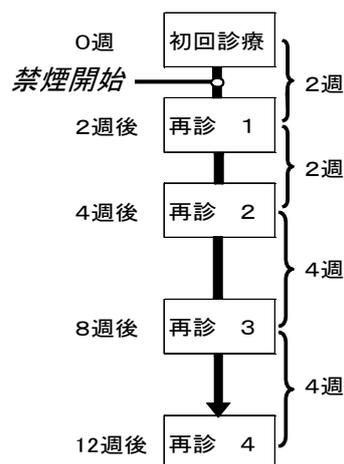
ニコチン代替療法から少し遅れましたが、全く異なる作用で禁煙を後押ししてくれる内服薬（商品名チャンピックス）が登場しました。内服によって、タバコを「美味しくない」と感じさせ、タバコを吸いたいという欲求がなくなってきます。ニコチンのような有害物質を含んでいませんので、身体にも悪影響はありません。禁煙成功率も高く（表）、外来受診は 5 回、12 週間でタバコがやめられます（図）。当院ではまだ少ないのですが、2 例の方がこの治療を行っており、上々の手ごたえを得ています。

皆さん、あるいは皆さんの周りに、タバコが止められなくて困っている人はいませんか？ぜひ一度、ご相談ください。

表 ニコチンパッチ・チャンピックスの比較

	ニコチンパッチ	チャンピックス
保険適応	2006年6月～	2008年5月～
総費用	40,010円	57,360円
自己負担分(3割)	12,003円	17,208円
薬剤費	20,730円	37,660円
自己負担分(3割)	6,219円	1,1298円
禁煙成功率	40～50%程度	65%程度
標準的薬剤投与期間	8週間	12週間
ニコチン	含む	含まない
虚血性心疾患患者への投与	不可	可
用量・用法	1日1枚貼付	1日2回内服

図 通院治療のプロトコール



## 院内部門紹介 その1 リハビリテーション科

現在、当院のリハビリテーション科には大仲功一、大賀 優、清水如代の3人の医師がいます。大仲はリハビリテーション科としての経験が長く、3人中ではリハビリテーション科医の平均像に最も近いかもしれません。脳神経外科専門医でもある大賀は脳神経系の疾患を得意としており、高次脳機能障害にも精通しています。清水は整形外科専門医としての知識と技術をベースにしてリハビリテーション科専門医取得を目指しています。このように、当科は脳神経系から整形外科系まで幅広い疾患や障害に対応できる陣容で日々の診療にあたっています。また専門外来として車椅子や座位保持装置などを扱う「チェアクリニック」(火曜日午後)と義肢装具などを扱う「ブレースクリニック」(木曜日午後)を開設し、院内外からのニーズに応えています。成人患者の嚥下造影や嚥下内視鏡も当科が担当しています。

当科は診療部第一診療科に属しており、療法士(セラピスト)で構成される「リハビリテーション部」とは別組織です。なお、他の病院ではリハビリテーション科(あるいは部)にリハビリテーション科医と療法士の両方が所属している場合もあります。

さて、一般的によく知られているとはいええないリハビリテーション科医ですが、いったいどのような仕事をしているのでしょうか?このことを丁寧にご説明しようとするとう紙面が足りなくなってしまうので、簡単に述べます。

日本リハビリテーション医学会では、リハビリテーション科専門医の医師像を次のように述べています:「病気や外傷の結果生じる障害を医学的に診断治療し、機能回復と社会復帰を総合的に提供することを専門とする医師」。少しわかりにくいでしょうか?キーワードは「障害」「機能回復」「社会復帰」「総合的」です。

リハビリテーション科医の勤務形態は「主治医型」

と「コンサルタント型」に大きく分けられます。主治医型はリハビリテーションだけでなく、基礎疾患や合併症を含む全治療に責任を負います。リハビリテーション専門病院や回復期リハビリテーション病棟に多い形態で、当院ではリハビリテーション科に限らず全ての主治医がこの立場をとっています。コンサルタント型は医学部付属病院や病床数の多い総合病院などに多く見られ、主治医の依頼に応じて主治医と連携しながらリハビリテーション医療を行います。

リハビリテーション医療は理学療法士、作業療法士、言語聴覚士をはじめとした多くの職種とのチームによって行われることが多いため、リハビリテーション科医にはチームアプローチへの適性が要求されます。そしてリーダーシップを求められることも多いと言えます。ある病院の先輩医師はリハビリテーション科医を「アメーバ」に例えます。「どんな形にも変化する」(ある時は理学療法士のごとく、そしてあるときはソーシャルワーカーのごとく…)、「触手を伸ばし狭い隙間に入っていく」(多角的に情報を収集し、チームの弱点をカバーしたりする)といったことを比喻しているようです。ただし、「単細胞」で「骨抜き」という落ちにはあまり賛同したくありません(笑)。



## 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師になりました

脳卒中は、日本人の死亡率第3位ですが、寝たきりや要介護状態の原因になる疾患としては第1位になっています。さらに今後、高齢化社会・生活習慣病の増加に伴い、脳卒中は増加することが予測されています。突然発症し、意識障害や片麻痺、高次脳機能障害など様々な障害を伴うことが多く、その後の患者さんご家族の生活や人生に大きな変化をもたらします。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、専門的知識を用いて障害を負った状態でも再びその人らしい生活を送ることが出来るよう“生活の再構築”に向けた支援を行なっています。脳卒

中患者の病態予測を行い、重篤化の回避や廃用症候群予防と機能回復のためのリハビリテーションの知識と技術を活かした活動を行い、患者のセルフケア能力を高め、日常生活動作の自立やQOL向上を目指し、患者さんご家族に寄り添い思いを尊重しながら患者さんのもつ可能性を引き出していけるよう取り組んでいきたいと思っています。



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師  
立原 美智子

## リハビリテーション・リレーエッセイ 第4回

第4回リレーエッセイを担当する理学療法科の橋爪です。今回は私が最近携わってきた研究のお話をしたいと思います。平成21年度地域貢献プロジェクト「長期的な地域在宅生活の継続を目指したリハビリテーション医療に関する研究」を実施しています。この研究は当院に入院された成人の患者さまを対象に退院後の生活状況を調査するものです。当院の療法では、在宅や地域に戻られたときに必要となるであろうと予想されることに対して練習を行っています。しかし、それらの練習が実際の生活でどれだけ役に立っているのか、また不足している点はないかを探りたいと思い、大学の先生方と共同でこの研究を始めました。研究に参加いただいた患者さまの一人に自宅では歩いているが、職場では車イスを使っていて、職場内のちょっとした段差が車イスを動かすときに大変だとおっしゃる方がいました。担当者は歩く練習を中心に行っていたため、車イス操

作の練習をあまりしていなかったとのことでした。このことから在宅や地域に戻ったときにはさまざまな役割や生活環境があり、移動ひとつをとっても自宅内での移動だけでなく、職場や通勤・通学・通院、さらには家族との外出時などさまざまな場面を想定した練習が必要であることを再確認しました。この研究は分析中なので、今後さらなる発見があるだろうと考えています。患者さま、ご家族さまのより明るい笑顔を目指して日々がんばっていきます！！



リハビリテーション科 理学療法士  
橋爪 佑子

## ボランティア活動便り

ボランティア活動報告「夏祭について」

8月5日(金)、医療大学付属病院にて夏祭りが開催されました。

模擬店として、わたあめ・ポップコーン・かき氷・パン・飲み物といった夏祭りの屋台を感じさせるようなコーナーが並び、職員やボランティアスタッフの皆様が中心となって参加してくださった皆様に振舞われました。また、当日は輪投げ・射的・ヨーヨーつり・ボーリングなどのゲームやスイカ割りのイベントも行われ、盛況のうちに終えることができたように思います。

4月から当院勤務となり、初めて参加させていただいた私にとって、夏祭りの様子はとても新鮮に感じたのを今でも覚えています。特に、患者様がリラ

ックスして模擬店を見にきてくださったり、ご家族と過ごされたりしている姿が見ることができ、とてもうれしく感じました。また、私自身もボランティア推進委員会の仕事があったにも関わらず、かき氷作りや買い物をしたりと、一緒になって楽しんでしまったように思います。

今後も、入院生活を送っている患者様やご家族に季節の訪れや芸術に触れ、リフレッシュできるような時間を提供できるように委員会活動に取り組んでいきたいと思っております。今回参加してくださった皆様、および運営にご協力いただいたスタッフの皆様本当にありがとうございました。

リハビリテーション部 理学療法科 齋藤由香



## ボランティア募集

当院では、院内でボランティアを行なってくださる方を募集しています。

- ・火曜 13:30～15:00 成人病棟 ステンシル
- ・水曜 13:30～15:00 成人病棟 絵手紙
- ・水曜 13:30～15:00 小児病棟 お誕生会・お楽しみ会・子供の遊び相手
- ・金曜 13:30～15:00 成人病棟 書道(隔週)
- ・屋上庭園の植物の世話

などです。

活動をご希望の方は、ボランティア推進委員長の遠藤までご連絡ください。(029-888-9212)オリエンテーションを行い、活動についてご相談していきます。

## 院内研修報告

### 平成23年度 院内研修実績

月	内容	講師	参加者	形式
4月1、4、5、18日	病院概要ほか	教育研究委員会	新採・転入者	講義・見学
7月13日 7月26日	救急蘇生研修会	医科学センター 武島 玲子準教授	38名	講義・実習
6月1日	院内研究発表会	遠藤亜紀他9名	57名	発表

#### 合同カンファランス

月	内容	講師	参加者	形式
6月10日	医療保険・身体障害者手帳・介護保険の基礎	地域医療連携部 遠藤亜紀	41名	講義

## プルタブ収集状況

ボランティア推進委員会では、プルタブを集め、プルネットというところへ送っています。(佐川急便が集配にきてくれるものです)

プルネットでは、一定量のプルタブを集めると車椅子と交換してもらえます。

2011年10月現在、6袋です。

#### ☆編集後記☆

気温も徐々に下がり、朝夕肌寒くなりました。季節の変わり目には、どうしても体調を崩しやすくなります。風邪に気をつけ、うがい・手洗いをしっかりしたいですね。

